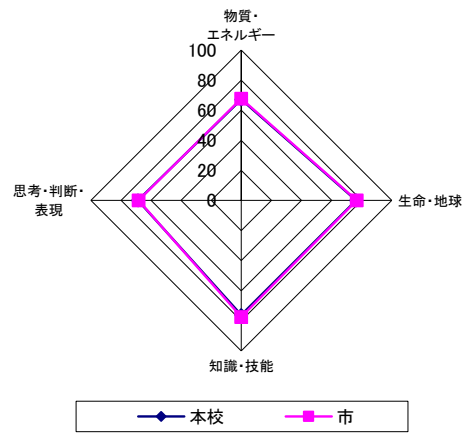


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.2	67.8	64.1
	生命・地球	76.3	76.7	78.3
観点別	知識・技能	76.1	77.4	78.3
	思考・判断・表現	68.7	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「物のとけ方」では、液体と固体を分ける方法をろ過と呼び正しい操作をすること、水溶液の重さを推測すること、濃い塩水から塩を取り出す方法を説明することの全ての項目で、市の平均を大きく上回った。 ●「物の燃え方」では、物が燃えると空気中の酸素の一部が使われることを理解する問題で、市の平均を12.9ポイント下回った。 ●「電流のはたらき」では、電磁石を強くする方法を理解する問題で、市の平均を9.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・窒素、酸素、二酸化炭素のうち、物を燃やす働きがあるのがどの気体であるかを調べる実験では、実験結果のまとめを明確にすることで、実験操作と結果を結び付けて考えられるようにする。避難訓練等の実体験と結びつけることもよい。 ・電磁石を強くする方法を調べる実験では、変える条件と同じにする条件を明確にして実験に臨むようにさせる。明確にさせる方法として、図や絵を挿入し、ワークシート等を工夫して理解の定着を図るようにする。
生命・地球	○「天気の変化」では、春ごろの日本付近の天気の変り方の理解、台風の動き方を理解し雲画像の台風がどのような順で動いたかを推測すること、台風接近中の不適切な行動の変化を指摘することの問題で、市の平均を大きく上回った。 ●「生物とかんきょう」では、葉を日光に当てる前後での酸素と二酸化炭素の割合の変化を理解する問題で市の平均を7.9ポイント、気体検知管の目盛りを読み取る問題で市の平均を6.9ポイント下回った。	・気体検知管の目盛りを正しく読み取る力をつけさせるために、実験前に気体検知管に慣れさせ、操作方法や目盛りの読み方を十分理解できるようにする。 ・植物での気体の出入りを調べるための葉を日光に当てる前後での酸素と二酸化炭素の割合の変化を調べる実験においては、結果を考察する時間を十分に取し、まとめを明確にすることで、理解の定着を図るようにする。